平成２９年度卒業生・修了生調査協力者会議
意見交換会　議事要旨

開催日時：平成２９年１１月２５日（土）１０：３０～１３：００
開催場所：センターホール２階　大会議室
出席者　：【卒業生・修了生】
**　　　　　　課程長・専攻長からの推薦者２２名（平成２０年度～平成２８年度の卒業生・修了生）**
**　　　　　【本学】**
**　　　　　　大谷芳夫 総合教育センター教育評価・FD 部会長　ほか全２１名**
陪席者　：学務課職員４名

１．開催主旨

本学の学部卒業生、大学院修了生を本学に招へいし、授業内容・方法や学生生活等に関する事項について調査する。卒業生・修了生の体験に基づいた意見を参考にすることで、今後の本学の教育内容・方法の改善に役立てる。

※冒頭、大谷教育評価・FD 部会長より本会議の開催主旨について説明があったのち、出席者の自己紹介及び近況報告が行われた。続いて、大谷教育評価・FD 部会長より「３×３教育制度」や SGU 事業（英語授業・インターンシップ）、COC 事業（京都府北部との連携）の実施に伴う教育改革の概要説明があった。

２．意見交換要旨（●は卒業生・修了生、〇は教員）

※別紙アンケート集計表を参考に、意見交換を行った。

＜３×３について＞

●早い段階で大学院進学が決まるので、大学院授業が先行履修でき、学部授業とのレベルの違いも実感できた。しかし、人によっては学部の卒業に必要な単位がまだ残っていたりして、大学院授業が履修できない場合もある。

〇修士は標準在学期間が２年と短く、就職活動などもあって、通常は在学中にあまり研究する時間がないというイメージだが、その面でも３×３は時間的利点があったか？

●研究に関しても、早く取り組みが始められたので良かった。

●３×３で大学院授業を先行履修している学生が全員学修へのモチベーションが高いかというとそうでもなく、大学院に入学した後に楽だからという理由の者が多い。

●自分は３×３制度の導入前に大学院に入学したので、１から大学院授業を履修していたが、産学連携の授業など負担の大きい授業を履修すると研究活動が蔑ろになってしまう。

●３×３のテストに合格した際に、どのような大学院授業が履修できるのか、履修制限があるのか等についての説明がなく分かりにくかった。事前に大学院の履修要項がいただけると助かると思う。

＜英語教育について＞

●TOEIC を受験する機会が多くその点は良かったが、研究の場面で使うような、言いたいことを英語で伝えるサバイバルイングリッシュ力を養える授業は少なかった。研究室に配属された後は、留学生たちと話すことなどにより、英語を話す機会はあった。

●語学上達のためのイベント等に関する情報提供が少ない。例えば、自分は海外の大学に留学する

ことになった際、Lunch-time English Table（LET）の案内があり参加していたが、それも一度は参加しないと案内のメール等が貰えない仕組みだった。大学はもっと積極的に情報発信をすべき。

○大学からの情報提供の仕方については苦慮しているところ。全学生向けのメール配信等は行っているが、実際学生が見ているのかは不明。

●今はＳＮＳの時代なので、大学でインスタグラム等を始めてみてはどうか。情報は誰でも見られる状態で流しておいて、学生側がそこから自分に必要な情報を選ぶ方が良い。

●CIS メールアドレス宛てに届くメールを、自分がよく使うアドレス宛てに転送する方法を通知してはどうか。

●英語授業は課題も多く、途中で脱落する学生もいた。学生によって英語学習に対するモチベーションはかなり違うということを教員も認識した方が良いと思う。

●今の英語授業は最高でも TOEIC730 点を目指すものしかなく、800 点の壁を超えるための授業がないので、ぜひもっと上を目指す学生向けの授業をやってほしい。

●建築関係のプロジェクト系授業の中で、留学生も交えて集団でグループワーク等を行った経験があるが、自分の考えを英語で話す力は TOEIC のための勉強では身につかない。英語でディスカッションができるような全体的な取り組みがあったら良いと思う。

●自分は学部４回生の終わりに１カ月間交換留学に行った。短期間ではあったが、他国からの留学生と交流もでき、自分にとっては大変有意義であった。大学からの金銭的サポートも手厚く、ありがたかった。

●自分は英語が苦手だったが、英語の授業の中で自分の研究内容について要旨や論文予稿を英文で書くものがあり、大変ためになった。そういう授業がもっとあれば、自分の考えをロジカルに書いたり話したりできるようになる。英語以前に、まずは日本語で自分の考えを発表したりできる機会が必要だと思う。

●社会人になってからはTOEICの点数はあまり関係ない。それよりも英語で会話する力の方が重要。もっと英語でのアウトプットの機会を増やすべき。

＜就職について＞

○就職活動の際、企業の立地（例えば、「京都にある」・「大都市圏にある」等）は意識していたか。

●自分は京都の建築系企業に就職したが、近くに伝統的な建築があったりして、そういう意味では京都は恵まれていると感じる。

●自分は就職活動の際、京都（又は京都付近の関西圏）に本社がある会社しか見ていなかった。理由のひとつは生まれ故郷の京都を離れたくなかったから。もうひとつは京都にはレベルの高いものづくりの企業がたくさんあるから。そのことを学生はあまり知らないと思う。

●地方企業のみの合同説明会に参加したが、地方企業は大卒学生の採用実績があまりないので、ブースを訪ねても取り合ってもらえないこともあった。もっと大学に京都や地方の企業の方が出入りしてくれることが望ましい。

●学部生のときに「産学連携ものづくり実践」を受講した。京都の４つの企業が参加し、それぞれの企業から出された課題に学生が取り組むといった内容。企業を実際に訪れてインターンシップも行い、企業の方とも人脈ができた。この授業のように、企業と協力して行うワークショップ系の授業がもう少し増えたら良いと思う。

●自分は、就職活動の際はまず大企業を見ており地方就職は考えなかった。社会人になってから投資をするようになり、そのときに初めて大企業以外にもいろいろな優良企業があることを知った。

＜授業科目について＞

●社会人になってからは、論理的に考えるということが大事。在学中にロジカルシンキングを学べる授業があれば良かった。

○それは、いわゆるロジックというものをひとつの命題にして、授業の中で取り上げるということか。対立するロジックを立てて、どちらが正しい・間違っているかということではなく、論理的に筋が通っているか考えるという意味では、みなさんは普段の研究の中で身に付けているのでは。

●もちろん、普段から意識せずに行っていると思うが、それを学問として授業の中で取り上げるということに意味があると思う。

○今、学部には「リーダーシップ基礎」という授業があり、40～50 人程が受講している。課題を与えて、学生それぞれが調査を行い、最後にはプレゼンを行うというもの。この授業はアクティブラーニングの方法を採用しており、高校から先生が見学に来られることが多い。

○研究室活動の中で、例えば半年ごとに論文を提出するということが行われていたりすれば、それはロジカルに考えて書くという訓練にはなっていると思う。しかし今指摘されているのはこれとは異なり、例えば 10 年先・20 年先に自分がこうなりたい、自分の会社をこうしたいというようなことを考えたとして、それは様々なことを論理的に繋いでいかないと絶対に実現できない。そこで使うようなロジカルシンキングについては、確かに現在の授業の中では取り上げられていないだろう。

●研究室活動で論文作成におけるロジカルシンキングやライティングは学べるが、研究室によってレベルが異なるので、全学で統一した授業があると良いのでは。それをやるとしても、なぜロジカルシンキングが必要なのか、まずはその目的をしっかり明示すべき。

●ロジカルシンキングを学ぶという意味では、自分の場合はインタラクションデザインの授業が役立った。

●英語も重要だが、日本語によるスピーチや発表、論文作成の方法などは、会社でも必要。研究室での活動（学会発表や先生からの指導）が重要で、研究の時間を多くとるべき。そういった活動を通して他のレベルを知るというのも大事。

●自分は、学生時代はあまりアクティブではなくどちらかというと受け身だった。今は英語やアクティブラーニングなど意識の高い取り組みが多数行われているが、自分のような学生はモチベーションを維持できるのかどうか疑問。

●大学入学後すぐに目的意識をもって勉学できるよう、社会に出て働いている方からお話を伺ったりして、今勉強することの意義を明確にするような機会があれば良かった。自分は社会人になってから、学生のときに勉強しておけば良かったと感じることが多い。

○教育目標等は履修要項の各学部・専攻の紹介のページに書いてはいるが、学生には届きにくいかも。確かに実際に働いている人の意見を聞くことが一番効くかもしれない。

●今日この会議に参加しているのは積極的な方が多いが、この大学だけでなく日本全体の大学の実情として、学ぶ意欲を強く持って大学に通っている学生はあまり多くなく、半分もいないくらいだと思う。まず大学は自分で望んで学びを得るところで、それから派生してしっかり自分の意見を持てるようになり、そして社会に出て働く、という意識の調整を行うことが重要だと思う。

●自ら学びたいと思えるかどうかについては、もちろん個人の資質もあるが、学ぶ環境の有無によるところが大きいのでは。自分は授業が終わった後に、成績評価についてよく教員に尋ねに行っていたが、返ってくる反応はまちまちで、役立つ書籍を薦めていただいたこともあれば、終わった授業の話をするなと言われたこともあった。評価の根拠が「見える化」されれば良いと思う。

●自分は学部→修士→博士とこの大学に通っているが、必修科目でも学部と大学院で同じような内容の授業があったりしたので、工夫が必要。例えば、授業間に相関を持たせて、この単位を修得したらこの授業は免除、というような制度があれば良い。

●自分の専攻の科目は隔年開講のものが多い。履修したい授業が修士２回生のときにしか開講されておらず、しかも就職活動と時期が重複してしまうといったことがあるので不便。教職の専修免許のために必要な授業も履修がしにくい。

＜クォーター制について＞

●短期間に学修が凝縮されるため、課題でいっぱいいっぱいになってしまう。

●クォーター単位での留学など、在学中にいろいろな進路を取れるようにする狙いもあると思うが、実際は、クォーター科目履修時は実験が満足にできず、その後は遅れた分を取り返さないといけないため、留学にまで目が向かない。

○クォーター制についてはまだ手探り状態で、メリットを活かしきれてない状況にあるのかもしれない。今後改善していく必要がある。

＜社会人経験と本学での教育について＞

○今、社会人として働いている方に聞きたいが、例えば上司に対して新しい提案をする際に、本学で学んだことが役立ったと思うことがあるか。もしあれば、どのようなことが役立ったと感じるか。

●社会に出てから役立ったと感じるのは、研究活動で論文を書いたりする中で培われた、文章を書く能力。入社して半年だが、予算書等の文書を書く機会が多く、その際に論理を頭の中で構築してそれを文章で表現する力は重要。専門で言うと、力学関係の知識は役立っている。

○企業で新人研修はあるか。昔は、力不足の学生でも、入社した後に企業が新人研修で一人前に育てるという気風があったが、今は大学卒業時の実力ありきという印象がある。

●自分の会社は、新人研修として、まず合宿研修があり、その後はいろいろな部署で業務を体験する研修を行っている。課題解決型の授業で養われた考える力はどんな場面においても応用が利く。

●卒業研究を行う中で、課題の発見の仕方、論理的な思考方法等を学ぶことができた。知識に関しては、大学で学ばなくても、意欲があれば自分だけでも学修することはできる。

○学修はゼロベースから自分でやるよりも、人から教わって学んだ方が吸収できるので、大学の授業で学ぶことに意味がある。

＜課外活動について＞

●自分は在学時、野球部のマネージャーをやっていた。部活やサークルは他の学部の人と交流できたりして、輪が広がるのが良いと思う。また、就職活動でもアピールできる。

●卓球部に所属していた。授業で使用する校舎は掃除が行き届いているが、部活やサークルで使う棟や体育館はおそらく掃除がされておらず、不潔に感じた。

●音楽サークルに所属していた。何かに所属して一芸を磨くというのは、社会人になってから実は役立つ。ぜひ学生時にはどこかに所属してほしい。

＜その他＞

●在学中は図書館をよく使っていたが、パソコンの起動が遅い。また、学内を少し見て回ったところ、節電の影響か暗いところが多かった。ぜひ LED 化を。

●自分がよく感じるのは、教員が大学運営や授業などで普段とても忙しく、自分の研究を進める時間が十分でないということ。学生の実験や研究会にもっと立ち会うことが多ければ、学生も教員も気付くことが多いと思うのにもったいない。今、サバティカルを利用してアメリカにいる教員と会う機会があり、そのような制度があるということを初めて知った。それらがうまく使えるようなシステムができて、教員にとってもっと働きやすい環境になれば良いと思う。

○本学にもサバティカル制度はあるが、その期間他の教員に負担がかかるので遠慮されることも多いようだ。